

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関とホールに理念を掲げ、月1回の会議時に、職員皆で唱和している	職員は理念を共有し、それに沿った支援を行うよう心掛けている。理念にそぐわない言動があった場合には管理者が直接注意している。理念の中には「ケアサービスの質の向上」も上げ、地域密着型サービスの意義を踏まえ全職員で取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の高齢者の集まりや、敬老会にも参加させていただいたり、畑の作物の差し入れもある。防火訓練にも参加していただいたことがある。ご近所にAEDの貸し出しもはじめた。	法人として区費を納め地区の行事にお誘いを受け参加している。当ホームの顧問と公民館長が良好な関係にあり年々地域との繋がりが強くなっている。地区で開催される年4回の高齢者の集い「鉢伏会」では保育園児との交流を図り、地区の文化祭でも「きんもくせいコーナー」を作ってもらい「編み物」等を出品している。「編み物教室」の指導、「ウクレレ音楽」や「菊の栽培」等のボランティアの来訪があり交流も深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行われる行事に、利用者と参加させていただき、交流を持っている。運営会議の勉強会に、ご近所の方たちも参加していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ハヤリハット、事故報告など、細かく報告しており、会議出席者の意見もお聞きして、ホーム運営に、活かしている。	奇数月に家族代表、地区分館長、民生委員、地域代表、地区消防団員、市福祉課職員の出席を得て開催されている。運営状況や利用者状況を報告し、意見交換等を行い運営に役立てている。更に、席上必ずテーマを決め勉強会を行うようにしている。直近では消防署員を講師に招き「AED」の使い方の勉強会を実施し、地域にも案内を出し多くの住民の参加があったという。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告など密に連絡し、認定更新時には、担当者へ利用者の暮らしぶりなどを伝え、連携をふかめている。	空き状況について市地域包括支援センターに相談し、福祉事業のネットワーク「福祉の森」にも掲載していただいている。介護認定更新時については家族に相談のうえ認定調査の代行も行っている。介護相談員も2ヶ月に1回来訪し利用者との交流を図り、1ヶ月後に書面にて状況報告を頂いている。また、介護相談員の紹介で近くの公共の日帰り施設のお風呂に出掛けることができるようになり利用者にも喜ばれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関の施錠は、ほとんど行っていない。	「ごく普通の生活をめざす」というホームの考えに沿い拘束をしないケアを心掛けている。玄関は開錠されセンサーで対応し、外出傾向の強い利用者については見守りの徹底と、ホームの方針にもある散歩にお連れすることで対応している。拘束については職員会議の席上話し合いを重ね徹底を図っている。	

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的、心理的虐待の話は、スタッフ会議では、話している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ほぼスタッフ全員の会議で勉強を行った		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの報告、モニタリング等のお話の場や、面会時など、御家族の意見をお聞きし、スタッフ会議や運営会議で報告している。	利用者全員が自分の思いや意見を伝えることができる。帰宅願望の強い時も見られるが、そのような時は話をよくお聞きし、より添うことで対応している。家族の来訪についてはそれぞれの都合で多い方と少ない方がいるが、月1回は来訪されるようお願いしている。また、請求書郵送時に利用者の暮らしぶりを手書きでお知らせするようにしている。誕生会、母の日等の記念日にお花を持って来訪される家族もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ほぼ月1回会議を開き、意見を聞くようにしている。	職員会議は月1回開かれ、業務や利用者状況の報告、意見交換等が行われホームの運営に活かしている。欠席者には議事録が回覧され情報を共有している。管理者による個人面談は年2回賞与支給前に行われ、処遇改善にも反映されている。職員は資格取得に積極的に各種研修に参加し自己研鑽しつつサービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	気分転換できる休憩室を確保したり、スタッフの話を聞くようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受けたり、内部研修を行ったりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協力していただいている他のグループホームはあるが、スタッフ同士の交流は行われていない。		

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族から、サービス利用について相談を受けた場合、必ずご本人と面談させていただき、ご本人を理解しようと努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までのご家族の苦労や困っていることなどお聞きして、次の段階の相談につなげている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思い、状況を確認し、必要なサービスにつなげる様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に得意分野で力を発揮していただき、感謝するという関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、誕生会に出席していただいたり、基本、受診は、ご家族にお願いしている。ボランティアに来て下さるご家族もいらっしゃる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親戚、友人などが面会にいらしたら、また来ていただけるよう声かけしている。	友人や親戚の来訪が多くあり、どなたが来られたか判るよう記入用ノートが玄関に置かれている。来訪されたら家に居るのと同じようにお茶をお出ししている。ホームの隣に契約美容院があり全員歩いて伺い楽しいひと時を過ごし、また、逆に美容師がホームに遊びに見えることもあり利用者に喜ばれている。正月には利用者から家族に年賀状(宛名はホームで代筆)を出し家族に喜ばれたという。仲の良い利用者同士、お互いの居室を行き来し楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶や食事の時間は、スタッフも一緒に多くの会話をもつようにしたり、トラブルになった時は、個別に話を聞いて、スタッフが調整役となっている。		

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所なさった利用者の所にスタッフが訪問して様子を伺ったり、御本人、家族を激励している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護記録、日々、お話して会話していく中からの気づき、アセスメントを通じ本人の思いの把握に努めている。	現状、殆どの利用者は自分の思いを伝えることが出来る。そのような中、一人ひとりの日々の記録から特記事項をアセスメントシートに転記し情報を共有し、心の通った支援を行うよう心掛けている。自分の肉親だったら、あるいは家に居たらどう接するのかを常に考えホーム全体で取り組んでいる。利用者にも「洗濯物たたみ」や「食器洗い」等、できることをやっていたき楽しく、張り合いのある生活が送れるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、これまでの暮らし方を把握し、新しいことの挑戦でなく、日々の中から、馴染みの暮らし方を継続する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護、看護記録から一日の暮らしの状況を把握している。その人に合った対応するように努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人は勿論、家族の意向を聴取し、管理者等の意見を反映させた介護計画の作成に努めている。新しい計画より継続できる計画を考えるようにしている。	利用者の健康はまず食事にあると考え特に気をつけている。職員1人で利用者を1名担当し、日々の状況については細かく記録に残し、管理者、ケアマネジャーも把握している。多くの家族は「楽しく怪我なく過ごしてほしい」という要望を持ち、多い方は週1回以上様子を見に来訪されている。モニタリングは3ヶ月～6ヶ月で行い、家族の意向も取り入れ状況に応じた計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々体調を観察し、支援の結果を介護記録に記録、支援の見直し、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	市から委託を受けている社会福祉法人のデイサービスの風呂を利用するなどして利用者から好評を得ている。		

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館の利用や地区の敬老会、年4回、地区のミニデイサービスに参加し、地区住民と交流を図っている。又、地区の文化祭にも出品し、施設の存在をピーアールしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の理解のもと、かかりつけ医、協力医に受診、往診をうけている。	利用前からの主治医を継続している利用者が半数ほどで受診については家族が対応している。他の半数ほどの利用者については当ホームの協力医による月1回の往診で体調管理をしている。また、ケアマネジャーが看護師でもあり、週1回、健康チェックを行っている。歯科については往診可能な協力医にお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な変化を見逃さない様早期発見に取り組んでいる。気が付いたことがあれば、看護師に報告し、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報を医療機関に提供し、退院時には、早期に出来るよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を提出し、限定付きですが、看取りを始めます。研修も行いましたが、日々勉強が必要です。	ホームとして看取りを始めることを決め、条件付きであるが指針を示し取り組めるようにした。協力医による24時間対応や医療行為、訪問看護の問題等、勉強が必要なこともあるが内部での話し合いを重ね出来ることは実行し、家族の希望も聞きつつ話し合いを重ね取り組もうとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網は、整備されている。ほぼスタッフ全員が普通救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	以前、夜間を想定した訓練を実施し、地域の消防団や、近隣住民も訓練に参加した。	年1回、消防署指導の下、防災訓練を実施している。また、夜間想定での防災・避難訓練を実施したこともある。近隣住民も参加し通報訓練やAEDの使い方なども見ていただいた。毎月1回、ホーム独自で避難訓練を行い、利用者には自己防衛の意味も含め「防災ずきん」を身につけ全員外に出る訓練を実施している。更に、敷地内には消火栓が設置されているので使い方の確認も行っている。	

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の性格を理解し、その人にあった言葉かけや対応、話し方もゆっくりするよう心掛けている。	利用者の呼び方については尊敬の念を込めて苗字あるいは名前に「さん」付けでお呼びしている。プライバシーの保護に関しては利用契約時に説明するとともに、人生の先輩である利用者に対して日々の接し方も人格を尊重し、気持ちを理解するよう心掛け支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り希望に添える様、配慮している。利用者の相談など、気軽に話せるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活が乱れない範囲で、その人のペースを大切にし、利用者の話に耳を傾け、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時、洗面時配慮している。「似合いますね。素敵ですね。」など利用者が喜んで笑顔になれるよう言葉をかけ、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に出来る仕事をお願いして、役立つことの喜びを感じて頂き、利用者スタッフとスタッフが、一緒に楽しく食事している。咳込み、飲み込みなども注意しています。	自力の方が大半で、全介助の方が若干名という状況で一人ひとりに合わせ支援している。食事の手伝いについては食事作りから片付けまで利用者も参加し自分のできることをやっていただき、食べることに「楽しむ食事」を目指している。野菜はホームの家庭菜園からのものと近所からの頂きものなども使用している。誕生日にはケーキを作り、クリスマスには「チキン」を頂き、正月には「おせち」を出すなどタイミングに合わせて喜ばれている。また、秋には管理者が漬物を漬け、干し柿も全員で作って楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量・水分量をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けし、その人の力に応じて支援している。		

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンをつかみ、なるべく排泄の自立にむけ支援している。家族の金銭的な負担を減らすためリハビリパンツの代わりに洗い替え出来るパンツを使っている人もいる。	排泄チェック表を活用し2時間おきに声を掛けトイレ誘導し、自立に向けた支援を行っている。自力でできる方は若干名で一部介助の方が多い。布パンツやリハビリパンツ、パットなど一人ひとりに合わせ対応している。オムツ勉強会で大きなパット使用が有効と聞き、特に夜間に使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操と散歩、水分補給の徹底、野菜や果物も摂取するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のスケジュールはあるが、入浴中、後も笑顔で喜んで頂ける様、会話にも配慮している。利用者は限定されるが、日帰り温泉に行く人もいる。	週2回を基本に入浴を行っている。全員が一部介助の状況であるが浴室を見ると手擦りのつけ方に工夫がされており入り易い浴室となっている。入浴拒否の利用者もいるが、時には体重を計るからと誘い入浴をさせていただくこともある。近くの日帰り施設に週1回入浴に出掛ける利用者もいる。また、正月に日帰りも含めて家族と温泉に出掛ける利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活を心がけ、生活のリズムを整える様努めている。リネン交換も定期的に行い、布団干しも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が薬の内容や副作用までは理解していないが、誤薬がないよう注意し、服薬時は、飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション(歌、トランプ、かるた、しりとり、塗り絵、ボール投げなど)や食事の手伝い、洗濯物たたみなどしていただいている。干し柿作りも行いました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お散歩、ドライブなど行っている。地域の行事なども、参加を心がけている。	外出の基本は毎日の散歩であり、近隣のバラ園に「30分間」散歩をすることを目標にしている。外出時には杖歩行の方が若干名、シルバーカーや車イスの方が数名という状況である。地区からのお誘いを受け敬老行事にも必ず出席している。また、春には近隣の空港や大学に花見に行き、初夏にかけてはあじさい見物に近くのお寺へ出掛けている。更に、秋には「ブドウ狩り」にも出掛け楽しんでいる。	

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は家族から預かり、必要なものが買えるよう支援はしているが、本人が使えるようには支援出来ていない。買い物支援は少ないが出かけた時は、希望の物を購入している。その時は、ご本人にお金を払っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、日常的に電話はしていただいている。毎年、年賀状は、家族宛に書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに花を置いたり、壁には、季節ごとの飾りつけをしている。温度や湿度にも配慮している。	1日の大半を過ごす食堂兼ホールは白い壁に覆われ広々として開放感がある。冷暖房は床暖とエアコンで調整され快適である。壁には外出時に撮られた利用者の写真や利用者一人ひとりの今年の夢が掲示されている。南側の窓は大きく、外には大きなベランダが設置され外気浴が楽しめるように工夫されている。ホールにはソファが数多く置かれ、利用者が思い思いの時間を過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで新聞や本を読んだり、談話室でテレビを観たり、穏やかに、仲良く過ごせるように、雰囲気作りをしている。夏期には、テラスが活用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、寝具はご家族が用意くださり、写真や思い出のものなど持ち込まれている。	各居室には使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれ一人ひとりの生活感が感じられる。広さも充分で整理整頓され清潔である。また、家族の写真や思い出の物が飾られ居心地が良いように工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札をつけ、トイレは大きな字で表示している。		